

特集

奇形ザルが語る
人類の危機

最近、マスコミで騒がれていることの1つに「奇形ザル」問題がある。「奇形ザル」とは？ かわしい実状を知るために、我々は全国の野猿公苑の中で最も奇形発生率の高い淡路島を訪れた。

人間にも及ぶか
異常な発生率

淡路島 奇形ザル

「花とミルクとオレンジの島」として知られる淡路島。この島で豊かな自然と共に育って来たサルを襲った奇形問題。サルが、人間に近い動物であるにもかかわらず、この問題に対し、危機感を持つ人は少ない。

淡路島は、兵庫県に属し瀬戸内海の東端に位置する。島の総面積は、五百九十三平方キロメートル。日本では、奇形ザルの発生率が最も高い島である。人口約十八万人を支える産業の中核は農業と酪農。山がちな島内には温暖少雨の瀬戸内式気候と京阪神の大消費地に近いという好条件がそろい、島の農業は多角的に経営されている。

奇形ザルの実態
変形、13種に及ぶ

淡路島は、歴史の古い島で、史跡、淡路人形などの文化財をもっている。島の一部は瀬戸内海国立公園に属している。そのため、自然の景観にも恵まれ、最近では観光の島として脚光をあびている。



①短指：指は五本あるが、普通のものとは比べて短い。
②分岐：指が他の指の途中から分岐している。
③欠指：二、三本の指が欠けている。
④裂手裂足：中央の一、二本の指が欠け、手のひらがV字型に切れている。四、五本の指が一本しかなく残った指は小指である。
⑤無指：手首・足首から先がほとんどない。

⑥半肢：ひじ、ひざから先がほとんどない。
⑦欠肢：腕、ももの付け根から先がない。
⑧皮膚性合指：となりあう指が皮膚でつながっている。
⑨多指：指の数が普通のサルより多い。
⑩ミラーフット：ひとつの足の内側にもうひとつの足がある。

⑪屈指：指が、横や手のひら側に曲がったままになっている。裂手などに伴う例が多い。
⑫足の後屈：足が足首のところで後ろに曲がっている。
⑬以上十三種である。(モンスキーセンターの資料より抜粋)



- ①短指
- ②分岐
- ③欠指
- ④裂手裂足
- ⑤無指
- ⑥半肢
- ⑦欠肢
- ⑧皮膚性合指
- ⑨多指
- ⑩ミラーフット
- ⑪屈指
- ⑫足の後屈

て、人間にはおこりえないと断言できるだろうか。サスは、比較的人間に近い動物だ。そのサルが、哀れにも原因不明の奇形という大きな問題を背負っているのだ。しかし、研究者の間で注目されているこの「奇形ザル」問題も、我々にとって、あまり関心が持たれていないといえよう。

もし、この問題が拡大されていくと、淡路島のサルは、他の動物の奇形発生率が高くなっていくことになる。おおげさには、人類の将来に不安を抱かずにはいられない。我々新聞記者は、そんな不安を抱いて淡路島を訪れたのである。

淡路島は、兵庫県の南端に位置する。島の総面積は、五百九十三平方キロメートル。日本では、奇形ザルの発生率が最も高い島である。人口約十八万人を支える産業の中核は農業と酪農。山がちな島内には温暖少雨の瀬戸内式気候と京阪神の大消費地に近いという好条件がそろい、島の農業は多角的に経営されている。

奇形ザルの発生と現状にはさまざまな要因、問題がある。その形態の一部を説明するとともに、淡路島モンスキーセンターにいるサルを事例として紹介しよう。

①半肢：ひじ、ひざから先がほとんどない。
②欠肢：腕、ももの付け根から先がない。
③皮膚性合指：となりあう指が皮膚でつながっている。
④多指：指の数が普通のサルより多い。
⑤ミラーフット：ひとつの足の内側にもうひとつの足がある。

淡路島は、兵庫県の南端に位置する。島の総面積は、五百九十三平方キロメートル。日本では、奇形ザルの発生率が最も高い島である。人口約十八万人を支える産業の中核は農業と酪農。山がちな島内には温暖少雨の瀬戸内式気候と京阪神の大消費地に近いという好条件がそろい、島の農業は多角的に経営されている。

淡路島

モンキーセンター

同センターは一九六七年中橋氏によって設立された。当時、洲本・柏原・山南(上灘地区)の山林に、野生ザルが生息していた。なお、同センター内のサルはこれを餌づけたものである。上灘地区は、気候が温和で四季を通じていろいろな草花が見られる。鳥や動物も多く、また、ウバメガシ、シイ、ツバキ、モチ

させてやりたいということとで、檻に入れた隔離している。奇形が軽度のものである普通のサルと寿命(約三十年)は変わらないのだが、中橋氏の懸命な努力にもかかわらず、奇形ザルは相対的に短命だそうだ。死んでしまった奇形ザルは、解剖するために冷凍保存されている。しかし、解剖して原

山モモ、ベンゾなどの自然林がある。この上灘地区の野生ザルは、比較的小柄で性格は非常におとなしく仲がよい。順位制の強いサルの社会としては、特別な集団性を持っているといえる。

因を究明しようとする研究者はなかなかいないそうだが、奇形の原因については、遺伝・環境・遺伝プラス環境の三つが考えられている。環境説として、上灘地区の野生ザルが餌づけされる以

意外な取材結果

—住民インタビュー—

淡路島に住んでいる人々は奇形ガールについて、どれほどの関心をもっているであろうか。そのことを調べるため、三原郡西淡町の慶野松原・尻尻の住民にインタビューしてみた。

	淡路島にモンキーセーターがあるということを知っていますか	知っている	70%	知らない	30%
Q	淡路島にモンキーセーターがあるということを知っていますか	知っている	70%	知らない	30%
A	「奇形ガール」について、どれほどの関心をもっているであろうか。そのことを調べるため、三原郡西淡町の慶野松原・尻尻の住民にインタビューしてみた。	淡路島にモンキーセーターがあるということを知っていますか	70%	知らない	30%

引き取られたそうだが、過半数の人は、それに気づいていなかったようである。

○ 奇形ザルの直接の原因は何だと思えますか。

遺伝（血縁関係・近親結婚）

農薬	26%
公害（環境破壊）	24%
わからない	18%
	32%

○ 「わからない」と答えた意識的な人々

同じ淡路島に住んでいる人間としてどう考えますか。

○ 「人間にも奇形が及ぶと怖い」「サルのことだから人間には関係ない」「原因を早く解明してほしい」などの意見が出た反面「奇形ザルは淡路島だけしかない」と思っていた」という意

人間への警鐘

人間への警告鐘

えてゐるだけで、野生ザルと遺伝の条件は変わらないはずである。なのに、野生ザルよりも餌づけされて二

この数字は慶野杉原と尻のインタビュエー結果を総合したものであるが、慶野松原だけでは全員が知っていた。

——奇形ザルのことはマスコミなどで表面化される以

人が一番多く三分の一。「農業」と答えた人の中には「ウシも農業のたくさんあった草を食べるので奇形

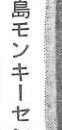
——奇形ザルのことが自分たち人間にもあてはまると

り組む研究者がほとんどいないために、まだはつきりと確認できていない。これが原因だと断言できないものではない。

葉を食べ、公害だらけともいえる環境の中で生活している人間に、奇形は発生しないと断言することができ

させないためにも、研究者に依頼して原因を究明する必要がある。そして適切な処置のもとで、人間に発生

淡路島モンキーセンター
所長 中橋実氏



三年のサルの方が奇形発生率が高いというのはおかしい。そうすると、原因は環境か、とも考えられるが環境だけでは言い難いので、専門家の間で、遺伝的に奇形を生みやすい母体と、環境との関係が原

奇形ザルがいることを
知っていますか

知っている 64%
知らない 36%

○「知っている」と答えた人の大半は新聞やテレビで知り、直接見た人は比較的になかった。

奇形ザルについて関心

前に気づいていましたか

気づいていた 34%
気づかなかった 66%

○慶野松原には以前、サルを飼っていた所があつて、そこにはかなり奇形ザルがいたらしい。今はそのサルは全てモンキーセンターに

が多い」という実例があったことを話してくれた人もあり「次は人間が……」という恐怖が感じられる。一方「遺伝」と答えた人は「モンキーセンターのある所は淡路島でも環境の良い所だから、公事とは考えられ

思いますか

思う
思わない

○「サルは人間に一番近いので、あてはまる」という意見が多かったが、「サルと人間は別だ」と切りはなして考える人も意外に多か

思う	54%
思わない	46%

でもかかわらずその原因が何であるか究明されていないためである。原因と思われているものがいくつか挙げられている。遺産という説農業などの環境によるという説、又はそれらの複合であるという説、その他である。市役所側の意見にも

「自分達は五体満足である」と、ほとんどの人は奇形ザルの現状について関心を示そうとはしない。テレビなどの特集（「大五郎」と

する前にくい止めねばならないのだ。そのために強く心と身近なものとして強く関心を持ち、何をどのようにすればよりよい状態へ進展していくか考えていかねばならない。

原因解明から対策

—洲本市役所—

淡路島の交通の中心である洲本バス・ターミナルから歩いて五分のところに洲本市役所がある。	我々新聞部は、野生ザルの奇形の原因の一つといわれている公害問題について、役所課の方には次の通	て、亜硫酸の元とな汚染が考	る。島内にこれが
もう一つの原因として挙げられているのが、農業散布の際の残留農薬である。もし、成長促進剤が原因ならば農薬を使用禁止することができる。しかし、使用を禁止するとなれば、農業で営んでいる人たちの巻き添えにしてしまうのでは、はっきりした解答が出るまで、行政機関としては動けない。両方を考慮すると、「自然保護」としてだけの対策しか立てられない。	現在、全国の離島地域に国から自然保護のための助成金を支給している。が、異例として、その助成金一億の十万円がこのモンキークロケットに渡されている。同センターの存在は、洲本市の観光資源として高く評価されている。こここの野生ザルは習性上、県道を通ることも人家を荒らすこともなく、サルが住民に危害を加えることもないので問題は起っていない。	問題には起っていない。	また奇形の原因と考えられるのが一般的な公害である。淡路島での公害は、和

より深い認識を

—観光客インタビュー—

牛の飼育が盛んなため、牛の排泄物によって起る畜産公害や尿尿（し）によつて起る河川に流すことによつて起る水質汚濁がある。それと海中中の微生物の異常増殖のために起る瀬戸内海の赤潮が、住民の生活を脅かしている。そして、奇形ザル

淡路島に來ている観光客は、奇形ザルのことを知っているだろうか。そして、奇形ザルから何を感じているのだろうか。西淡町の慶野松原と洲本の海水浴場で観光客に奇形ザルについてインタビュしてみた。

テレビ・新聞などのマスコミで、ほとんどの人は奇形ザルのことを知っていたしかし、知っていることと答えた大半はテレビで少し見ただけで、特に興味をもつた人はあまりいなかったようである。

より深い認識を
——観光客インタビュー——

「奇形ザルを第三者的に見てどう思うか」という質問に対して、ほとんどの人は「かわいそう」と答え、「人間にも及ぶのではないか」「人間が起した公害によつて、奇形ザルが発生した」と考えている人もいた。しかし中には「何も感じない」「そんなザルはいない方がよい」など、無関心な意見も返つてきた。

現在、モンキーセンターへ、国などからの援助は少額であるそうだが、それについての意見を聞いてみる

「人間ではサリドマイドや有機水銀中毒などがあるが、などの答えが返ってきたが、これといて要点をつかんできている答えはなく、ただ漠然としたものばかりだった。以上がインタビューの結果である。最後に「このインタビューについてどう思うか」と質問したところ、「知らない人にも奇形ザルのことを広めてほしい」「ザルのことだからと考えてはいけない。人間の問題として考えてほしい」という返答があった。観光客はインタビューに協力的に応じてくれた。

観光客は、奇形ザルについて比較的兴趣をもっているようだ。しかし、このような観光客でも奇形ザルについての知識はあまりなく「人間に比較的近いサルに奇形が多発しているので、人間にも及ぶのでは。」

つた。これらの結果から考えて住民は思ったより奇形ザルに關心がないということである。我々はこの問題をもつと真剣に考えるべきではないだろうか。

と、大部分の人は援助が必要だと思っているようだった。その理由としては「國のムダなお金をモンキーセントラーへまわせば良い」「お金でではなく、公害を防止することによつて援助すべきだ」「國が奇形ザ

しも、人間にも起りうるものとしたら「恐い」「できる限りくいとめるように努力すべき」と考えているらしい。

次に、観光客に奇形についての知識を述べてもらった。それによると「手足が見うけられる。関心があることはよいが、関心だけでこの問題を終わらせてしまつてもよいのだろうか。我々は、奇形ザルの実体と現状をもつと把握し、考えていくべきだと感じた。

